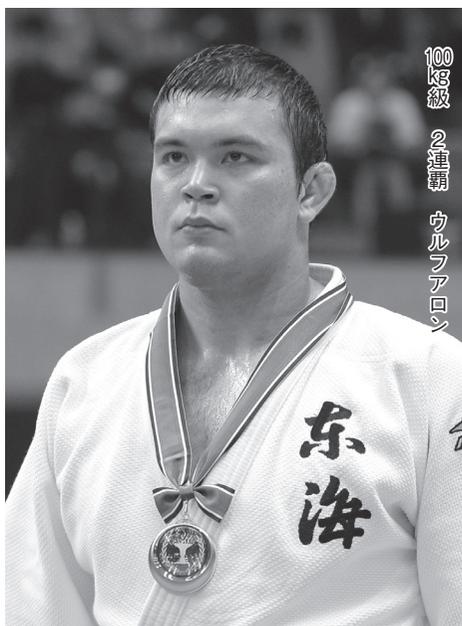
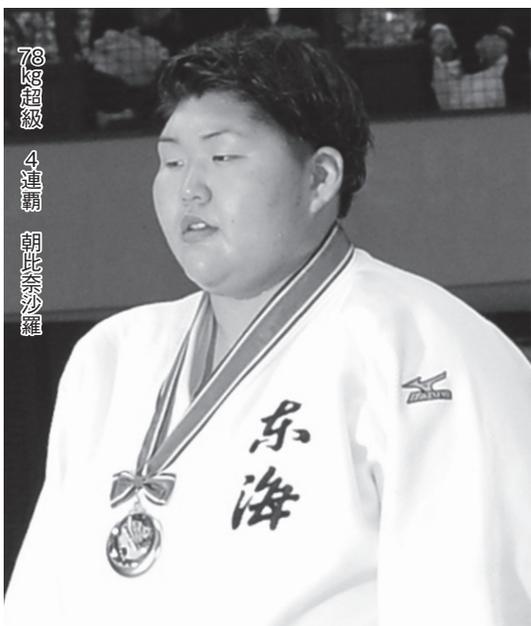


BUDŌ

NEWS

今月のニュース

平成28年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会



第64回全日本剣道選手権大会

勝見洋介

(神奈川県警)

が初の栄冠



決勝 勝見洋介（右）対國友錬太郎



天皇盃を手にする勝見洋介五段



第64回全日本剣道選手権大会は11月3日、日本武道館で開催された。大会には全国各地の予選を勝ち抜いた精鋭64名が出場し、トーナメント戦を争った。小春日和の中、剣道日本一を見届けようと9726名の観客が詰めかけ、会場は熱気に包まれた。

決勝は、前回2位の勝見洋介五段かつみようすけ（神奈川県・神奈川県警）と、前々回2位の國友錬太郎五段ともれんたろう（福岡・福岡県警）が勝ち上がり、勝見が見事な小手を決めて、3回目の出場で初優勝を手にした。また、大会史上3人目の連覇を目指した西村英久五段にしむらひさひさ（熊本・熊本県警）は4回戦で國友に面と小手を奪われて敗退した。



準々決勝〔地白 メコー 足立〕 突きに跳ぶ地白 (右)



準々決勝〔國友 メコー 西村〕 序盤から國友 (左) が面で攻める

選手コメント



▽前年度優勝者・ベスト8 西村英久選手(熊本県警)

「悔しい思いもあるんですけど、この大舞台に出られることがとても光栄なことですし、また、勉強したいなと思いました。もっともっとメンタル的にも大きくならないと、2年続けて勝つのはちょっと難しいのかなと思います」



▽ベスト8 足立柳次選手(埼玉県警)

「負けると悔しいですね。準々決勝までこられたという点に関しては満足しています。強い選手たちとの力の差を痛感させられたので、また一から稽古に励んで、来年この場所に戻ってこられるように精進していきたいです」

大会の出場資格は段位無制限で、満20歳以上。試合は三本勝負、試合時間は3回戦までは5分、4回戦以降は10分で行われ、時間内に勝敗が決しない場合は時間無制限の一本勝負で争われた。

◇第1・2ブロック(1回戦)準々決勝

第1ブロック、地白允大(北海道警)は、1回戦を延長の末、坂口洋司(京都府警)を小手で仕留める。2回戦は、終盤に日置康紀(愛知県警)に面を決めて一本勝ち。3回戦は、北浦裕介(長崎県警)との対戦。両者決まり手のないまま延長戦に入ると、地白が北浦の手元が上がったところに小手を打ち込み、一本勝ち。準々決勝、初出場ながらベスト8に上がって

きた足立柳次(埼玉県警)との対戦。攻め合いから地白が面に跳ぶと、居ついた足立の面を奪う。さらに、近間から足立が下がろうとしたところに、地白の小手が決まり、二本勝ち。地白は初のベスト4進出。

第2ブロック、前々回2位の國友錬太郎が、1回戦は延長で山本隆裕(広島県警)との相面を制して一本勝ち。2回戦、延長で佐藤弘隆(千葉県警)の小手に合わせて面を決めると旗が三本上がって勝利。3回戦は西村健(兵庫県警)との対決。延長戦までもつれこんだが、渾身の面を決める。準々決勝で、前回優勝の西村英久が登場。國友が面で先制。焦る西村が攻めきれず面に出たところを國友が鋭い小手を決めて二本勝ち。國友がベスト4に駒を進めた。



準々決勝〔宮本 メメー 江島〕 宮本（右）が気迫の攻めを見せた



準々決勝〔勝見 メメー 大石〕 勝見（左）が二本目の面を決める

選手コメント



できて、今は悔しい気持ちよりも、出場してこういう試合ができてよかったと思っています。もつと稽古を積んでもう一つ上に行けるようにこれからも精進していきたいです」

「準々決勝からの一試合場での試合はすごく嬉しかったです。ずーっと夢の舞台でしたので、それが実現



た。去年は同学年の西村選手が優勝したので、何がある自信もあったので悔いの残る結果です」

「警察大会では個人・団体とも大阪府警が優勝したので、ここで優勝できれば完全制覇という気持ちでした」

◇第3・4ブロック（1回戦）準々決勝

第3ブロック、初出場で大学3年生の宮本敬太（国士舘大3年）が台頭した。1回戦、中盤に飛び込んで、草薨大心（秋田県警）からを小手を奪って一本勝ち。2回戦は、開始早々、西山弘一（高知県警）に引面を決めて一本勝ち。3回戦は、ベテランの権丈直樹（福岡県警）との対戦。宮本が面、小手と盛んに攻め、さらに大技の面が権丈に決まる。次いで、攻めて中に入り、小手を決めて快勝。準々決勝は、初出場の江島千陽（大阪府警）との対戦。スピードのある打ち合いが続き、先に制したのは宮本。捨て身の面で一本。さらに、面を決めて勝負あり。正攻法の剣道で宮本が堂々の二本勝ちを収めて準決勝進出を果たした。

第4ブロック、前回2位の勝見洋介が、昨年の悔しさをバネに快進撃を見せる。1回戦、武田直大（宮城・教員）と対戦。鏝迫り合いから、引面を決めて先制。さらに、武田が前に出たところに鋭い小手を決めて二本勝ち。2回戦、花田崇文（島根県警）から面を奪って一本。続けて下から攻め、花田の手元が上がったところに素早い小手を決めて二本勝ち。3回戦は3位入賞経験を持つ畠中宏輔（警視庁）との対決。時間内に有効打がなく延長戦へ。畠中が面に跳ぶと、これに勝見がすかさず反応し、出小手を決めて勝負あり。準々決勝の相手は、初出場で全国教職員大会優勝の大石洋史（徳島・教員）。大石が胴に出たところを勝見が面を決めて一本。さらに、捨て身の面が決まって一本。勝見は二本勝ちで順当に勝ち進んだ。

▽ベスト8 江島千陽選手（大阪府警）

準決勝

國友錬太郎 ドー 地白允大

ともに国士館大学の同門対決。國友が幾度か思い切った面を放つが、先輩である地白は間を切って打たせない。地白も面で返すが、國友が防いで打たせない。中盤につれて、地白は面、國友は小手と面を狙い手数が増えていく。10分が経過すると延長へ。延長3分過ぎ、地白が面に出たところを、國友が胴に返して勝利。國友が2年ぶりに決勝へ進出した。



國友（左）が胴に返す



勝見（右）が二本目の面を決める

勝見洋介 メーメ 宮本敬太

開始早々、宮本は攻めに出るが、勝見が冷静に凌ぐ。数度渡り合い、4分経過。相面となり、宮本の竹刀がわずかに先で勝見の中心を捉えて、宮本に三本の旗が上がる。負けじと積極的に攻めに出た勝見は、宮本の小手に合わせ、小手返し面を決めてタイに戻す。勝負の立会いで、宮本が渾身の諸手突を放つと、勝見は打ち終わりに引面を決めて勝利を呼び込んだ。勝見は勢いに乗る宮本を抑え、2年連続で決勝の舞台へ進んだ。

決勝

勝見洋介 コー 國友錬太郎

ともに初優勝を狙う昨年2位の勝見と、一昨年2位の國友との決戦。勝見が果敢に仕掛けていくと、國友は冷静に応じる。國友も機会を待つて鋭い打突で攻めるが、活路は見出せない。両者譲らず、一進一退の攻防を見せる。試合開始6分、勝見が素早く小手に跳ぶ。一瞬引いた國友に鮮やかな小手が決まって一本。残り時間も少なくなり、後がない國友に対し、有利な状況になった勝見。追いつめられた國友だが冷静に反撃を開始。一方、勝見は出端を狙い、さらに攻めていく。会場に勝見の激しい息継ぎが聞こえる中、時間終了のブザーが鳴り響く。勝見が一本勝ちで勝利し、初優勝を達成。新しい優勝者の誕生に、会場からは惜しみない拍手が送られた。



勝見（右）は攻め込んで一本を狙った

選手コメント

▽3位 地白允大選手（北海道警）



「自分をいかに信じて惑わされないで普段通りの試合ができるか、それを意識して稽古に取り組みました。この舞台の準決勝で、後輩と試合ができるのは幸せだと思えます。悔しいですが、勝負にいったところを打たれたのでしようがないですね。反省すべき点はいっぱいあります。一戦一戦勝って、その積み重ねが結果だと思っているので、自分を信じて普段通りにやれば結果はついてくると思えます」

▽3位 宮本敬大選手（国士舘大3年）



「出場するからには優勝を目指していました。自分の持味は積極的な剣道なので、尊敬する先輩方の胸を借りるつもりで思いっきり技を出し切ろうという気持ちで試合に臨みました。（準決勝は）先に一本取ってから守りに入ってしまった、自分の悪いところが出てしまいました。でも、良い試合ができたと思えます。今回の結果に満足することなく、またこの舞台に戻ってこられるよう稽古に励みたいです」

▽出場11回目 原田賢治選手（福島県警）



「いろいろな方にサポートしていただいて、今は感謝の気持ちです。負けてばかりの全日本ですけど、小さい頃からの夢の舞台で、11回も出場させていただいて本当に名誉です。これからも剣道家として成長できるように頑張っていきたいと思えます」

優勝者インタビュー

◎優勝Ⅱ勝見洋介選手（神奈川県警）

攻め込んでからの一本、練習の成果が実る



五段。岡山県倉敷市出身。30歳。169cm、75kg。兄・健太選手が通った福田道場で3歳から竹刀を握る。小学生の時に頭角を現し、味野中学校では全国中学校大会2位入賞。倉敷高校から鹿屋体育大学へ進学。1年生からレギュラー入りし、九州大会団体優勝4回、西日本学生大会団体優勝を果たす。その後、神奈川県警に奉職。全国警察大会団体優勝、世界選手権大会団体優勝を経験。全日本選手権大会は3回目の出場で初優勝。

をこう振り返った。

「10分の時間配分が難しかったです。守りに入ったら負けると思い、攻めながらいくつもりでした。しかし、慎重に相手の様子を見ながらになりました。日頃、足を使いながら防御するという練習をしていたので、決勝戦の舞台上で練習の成果が出たと思っています」

神奈川県勢の優勝は、第58・59回大会を連覇した高鍋進選手以来5年ぶり。過去に連覇を達成した神奈川県警の宮崎正裕名誉師範、同じく高鍋コーチを引き合いに、連覇に話が及ぶと勝見選手は苦笑いした。

「宮崎先生や高鍋先生を意識したら、レベルが違うので精神的にもきつくなってしまう。予選から勝ち上がるということが、一番大変だと思っているのですが、そこをしっかりと勝ち抜いて、また来年もこの舞台に出られるように稽古していきたいと思えます」

決して驕らず稽古をしていくことを誓った新王者の勝見選手。今後進化を続け、攻め込む剣道を極める勝見選手に注目していきたい。

今年出場3回目。30歳で全日本選手権を制覇した。団体戦では実績がなかった。個人戦では優勝に恵まれなかった。昨年、2位で終えた全日本選手権大会での悔しい思いを忘れることはなかったという。

「今までも、去年も惜しいところでチャンスを逃してきました。挫けそうになっても、諦めずに頑張ってきたよかったです」

苦汁を嘗める日々が続いたこの1年間、どのような稽古を意識してきたのか。

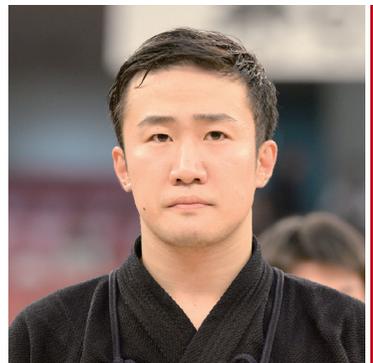
「自分の剣道の特徴が出端技だと思われているせいか、そこを警戒され

た時期がありました。そこで自分から攻め込んで一本にできる技を1年間しっかりと稽古で取り組みました」

決勝戦では、その稽古の成果が実り、勝負を決めた小手につながった。「(國友選手は)手の内を知る仲で、ここ一番で捨て切つていかないと勝てないと思いました。攻め込んで、ここだと思つた時は、自分で思つて打つというより、体が勝手に反応します。自然に体が動いて、その瞬間に小手が出ました。後打ちの面が危なかったのですが、そのままの勢いで決め切ることができました」

決勝戦で一本が決まった後の戦い

選手コメント



○準優勝＝國友錬太郎選手(福岡県警)

「今回は是非とも優勝したかったので悔しいです。昨年は予選で負けて悔しかったので、稽古の時にどれだけ集中できるか意識して取り組みました。最近では、手元を上げると足が止まり打たれてしまうので、足で捌いて足で攻めることを意識しています。(決勝は)集中はしていましたが、足が止まったところを打たれてしまったと思います。あと一歩優勝に届かないのは、自分に足りないところがあるので、稽古に励みたいと思えます」



第64回 全日本剣道選手権大会

段位	出場回数	選出県	氏名	氏名	選出県	出場回数	段位
四段	1回	(大阪)	土谷 有輝	権丈 直樹	(福岡)	1回	四段
五段	3回	(鹿児島)	上宇都鉄舟	東永 幸浩	(埼玉)	10回	錬七
五段	1回	(埼玉)	足立 柳次	溝邊 俊寿	(長野)	3回	六段
四段	1回	(福井)	内藤 洋	笠原 周	(和歌山)	2回	五段
五段	2回	(神奈川)	高見 優	西山 弘一	(高知)	4回	錬六
六段	6回	(静岡)	内田 勝之	神田 智浩	(愛知)	1回	四段
五段	4回	(青森)	古畑 健吾	宮本 敬太	(茨城)	1回	四段
四段	3回	(奈良)	山田 侑希	草薨 大心	(秋田)	4回	五段
錬六	1回	(愛知)	日置 康紀	真田 裕行	(鳥取)	2回	四段
錬六	6回	(茨城)	海老原秀則	篠井 皓太	(石川)	2回	六段
五段	2回	(北海道)	地白 允大	遅野井直樹	(東京)	2回	五段
五段	1回	(京都)	坂口 洋司	安藤 翔	(北海道)	5回	五段
五段	1回	(愛媛)	桑原 隆二	上地安一郎	(沖縄)	2回	六段
五段	2回	(長崎)	北浦 裕介	嵩津 貴之	(千葉)	2回	五段
錬六	2回	(東京)	越川 一孝	小嶋 剛史	(三重)	1回	五段
錬六	2回	(山口)	橋本 光見	江島 千陽	(大阪)	1回	五段
四段	1回	(大分)	栗山 慎平	吉富 真	(静岡)	1回	四段
錬六	4回	(埼玉)	嶋田 貴文	加々見 学	(山梨)	1回	五段
五段	2回	(大阪)	升田 良	川木 一也	(山形)	7回	錬七
錬六	4回	(香川)	木下 智成	鈴木 克則	(宮崎)	1回	五段
五段	2回	(岩手)	岩崎龍一郎	檜原 圭亮	(滋賀)	1回	四段
五段	3回	(熊本)	西村 英久	鈴木慎太郎	(栃木)	2回	錬六
四段	1回	(群馬)	納谷 誉	大石 洋史	(徳島)	1回	五段
六段	4回	(岡山)	尾池 智行	西野 哲哉	(新潟)	1回	四段
五段	2回	(福岡)	國友錬太郎	勝見 洋介	(神奈川)	3回	五段
六段	2回	(広島)	山本 隆裕	武田 直大	(宮城)	2回	五段
四段	1回	(富山)	荒木 奎介	花田 崇史	(島根)	1回	五段
四段	2回	(千葉)	佐藤 弘隆	原 勇人	(佐賀)	1回	五段
錬六	4回	(東京)	正代 正博	小谷 明德	(千葉)	7回	六段
六段	11回	(福島)	原田 賢治	富松 資国	(福岡)	1回	五段
錬六	4回	(兵庫)	西村 健	桐石 泰	(兵庫)	1回	四段
五段	2回	(岐阜)	野田 了	島中 宏輔	(東京)	4回	錬六

優勝・勝見 洋介 (神奈川)



少年剣道指導
木刀による剣道基本技稽古法 (調布市剣道連盟)



日本剣道形
打太刀・遠藤正明範士、仕太刀・塚本博之範士

公開演武

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



(写真提供：『剣道時代』)

剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠

敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え

編集・発行 日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ!

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

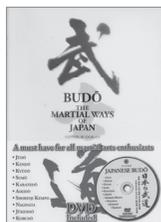
日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 鎌太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)



兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)

2020年東京五輪へ向けて 新たな戦いがスタート

平成28年度講道館杯 全日本柔道体重別選手権大会



女子78kg 超級決勝＝朝比奈（右）対素根



男子100kg 級決勝＝ウルフ（左）対飯田

平成28年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（主催Ⅱ全日本柔道連盟）が11月12日・13日の2日間、千葉ポートアリーナで開催された。試合は男女14階級で争われ、4年後の2020年東京五輪代表に向けた熱い戦いが早くも始まった。

■男子

▽60kg級

今年の選抜体重別で3位の永山竜樹（東海大）と同じく選抜でその永山を準決勝で破って優勝した志々目徹（了徳寺学園職）が決勝で対戦。試合はゴールデンスコアまでもつれ、最後は永山が小外掛で技有を奪い、嬉しい初優勝。

◎優勝Ⅱ永山竜樹選手（東海大）

「東京オリンピックへの戦いはもう始まっているので勝とうと思っていました。現在は重量級と練習をやって地力をつけています。志々目選手は受けも強いので、ワンチャンスをもにしようと思っていました。今後は来月のグラندスラム東京、その後の国際大会でも優勝して東京オリンピックで金を取りたいです」

▽66kg級

決勝に残ったのは、昨年グラランドスラム東京優勝の高上智史（旭化成）を破った磯田範仁（国士舘大）と、優勝候補の本命と目された阿部一三を一本で降した橋口祐葵（明治大）。磯田は前に出て先に技をしかけていき、試合中盤で小外掛の技有を奪う。磯田はその後は落ち着いて橋口の攻撃を捌き、初優勝を手にした。

◎優勝Ⅱ磯田範仁選手（国士舘大）

「橋口選手は同じ道場出身で、決勝を争えて嬉しかったです。チャンスは少ないと思っていたので、得意の足技でポイントを取れて良かったです。今年は去年負けた相手に勝つて優勝できて良かったです。この階級は強い選手が沢山いるので、これからは強い選手が沢山います」

▽73kg級

決勝に残ったのは9月のジュニア大会を制した立川新（東海大）とロンドン五輪銀メダリストの中矢力（ALSOK）。高校・大学の先輩でもある中矢を相手に、立川は果敢に攻めて、試合中盤に大内刈で有効を

奪取。そのまま勝利した立川が初の戴冠。

◎優勝Ⅱ立川 新選手（東海大）

「憧れの選手である中矢先輩に勝って嬉しいですね。泥臭く攻めて勝とうと思っていました。前に出る姿勢で試合が出来ました。目の前の試合を一つずつ勝って東京オリンピックに出たいです。期待に応えられるよう頑張ります」

▽81kg級

ケガから復帰した2014年講道館杯王者の渡邊勇人（了徳寺学園）が一本を積み重ねて決勝進出。反対ブロックでは、学生体重別選手

権を連覇した佐藤正大（国士舘大）

を一本で降した春山友紀（自衛隊体育学校）が勝ち上がった。試合は渡邊が決勝までの勢いを保って、有効、技有を奪取し、最後は小外掛で綺麗に一本勝ち。渡邊が全試合一本勝ちで優勝を決めた。

◎優勝Ⅱ渡邊勇人選手（了徳寺学園）

「全試合一本勝ちですが、内容は満足できるものではありません。去年1年で2回手術してしばらく柔道が出来なくて辛い時期があったのですが、期待や応援してくれる人がいたのでこの舞台に戻って来られたと思います。期待に応えられて嬉しいです。ひとつひとつ大会で勝つことを

心掛けて頑張っています。国際大会の経験が少ないので、世界大会をまず目標にしたいです」

▽90kg級

昨年優勝の大辻康太（日本エースサポート）は、2回戦で釘丸太一（セントリー）に敗戦。釘丸はそのまま勝ち上がり決勝へ。反対ブロックは長澤憲大（パーク24）が次々と相手を一本で破り、決勝進出を決める。決勝で先制したのは釘丸。開始1分半で大外返の有効を奪う。長澤は必死に巻き返しを図り、残り約30秒で仕掛けた内股で有効を奪い返す。試合はゴールデンスコアまでもつれるも最



男子73kg級決勝＝立川（左）が大内刈で有効を奪って初優勝を決める



男子81kg級決勝＝渡邊（左）が小外掛一本で2年ぶりの優勝を果たした



男子 90kg 級決勝＝長澤（手前）が
内股で有効を奪い返す



男子 100kg 級決勝＝ウルフ（手前）の内股が
飯田をとらえる



男子 100kg 超級決勝Ⅱ王子谷（奥）が攻める

後は釘丸に指導が入り、長澤が優勝。

◎優勝Ⅱ長澤憲大選手（パーク24）

「優勝を狙っていたので、しっかりと取れて嬉しいです。決勝は投げられ焦りましたが、自分の方が強いと思って試合をしました。受けが強い選手でしたが、ワンチャンスをものでき良かったです。次のグラウンドスラム東京で優勝して、早くペイカーに追いつけるように頑張ります」

▽100kg級

決勝には昨年の覇者ウルフアロン（東海大）と飯田健太郎（国士舘高）が順当に勝ち上がった。決勝戦では

ウルフが飯田を圧倒。開始約1分、

ウルフが内股を仕掛けると187cmの長身の飯田の身体が一回転、豪快に畳に叩き付け、技有を奪うと、その後も危なげなく試合を支配したウルフが連覇を達成。

◎優勝Ⅱウルフアロン選手（東海大）

「今日は自分のいいところを出せたと思います。最近内股を練習していたのでそれが出せました。飯田選手が出てきて良い刺激になっていますが、年下の選手に負けたら立ち直れません。それがやる気になります。力でも技でも勝負できる選手になりたいと思っています。組手はまだだなので、組負けてから投げる技も考えたいです。次は、まずグラ

ンドスラム東京で勝って世界選手権に繋がりたいと思います」

▽100kg超級

七戸龍（九州電力）、西潟健太（旭化成）、小川雄勢（明治大）といった優勝候補や実力者が次々に敗退する波乱の展開。そんな中、今年

の全日本選手権者、王子谷剛志（旭化成）が実力を発揮。危なげなく勝ち上がり、昨年の優勝者上川大樹（京葉ガス）を準決勝で破って決勝へ。決勝の相手は今年のジュニア王者である太田彪雅（東海大）。こちらは混戦の中、接戦をものにして決勝に進出した。その決勝、王子谷は圧力をか

け続け、太田は防戦一方。王子谷は技のポイントを奪えなかったが、終始優位な状態で試合を進め、指導差で優勢勝。初優勝を飾った。

◎優勝Ⅱ王子谷剛志選手（旭化成）

「全試合で一本をとって勝とうと思っていましたが、それが絶対勝たなければいけないに変わり、消極的になってしまった部分が反省点です。今日の勝因は前に出続けたことです。それが持ち味だと思うので今後でも継続していきたいです。この大会、ここから自分のスタートなんだという気持ちでいました。グラウンドスラムはずっと勝てていないので、次は勝ちたいです」

女子

▽48kg級

決勝は、連覇を目指す渡名喜風南（帝京大）と森崎由理江（A-I LINE）の顔合わせ。渡名喜は隅返の有効を奪われるも、内股ですぐに有効を取り返すと、さらに攻勢を強め、森崎の隅返に合わせて小外掛を決め、見事に連覇を果たした。

◎優勝Ⅱ渡名喜風南選手（帝京大）
「優勝できてほっとしています。今年はおール一本で決めることができました。ここ数日は背負投とか大技

を練習していたので決めることができよかったです」

▽52kg級

昨年優勝の西田優香（了徳寺学園職）と準優勝の五味奈津実（J R 東日本）が揃って1回戦負け。今年のグランプリデュッセルドルフで優勝した志々目愛（了徳寺学園職）も

2回戦で敗退する混戦の中、勝ち残ったのは、角田夏実（了徳寺学園職）と立川莉奈（福岡大）。決勝では互いに技が決まらないまま試合終了となり、指導差で角田が初優勝。

◎優勝Ⅱ角田夏実選手（了徳寺学園職）
「すごく嬉しいです。残り1分で指導をとられました。ここで下がったら負けると思い、頑張りました。私は守りが弱いので攻めるしかありません。今後はもつと堂々とした試合ができるようになります」

▽57kg級

準決勝で小野彰子（ベネシード）を破った昨年の覇者、石川慈（コマツ）と今年の選抜体重別大会王者の芳田司（コマツ）に勝利した2014年世界選手権王者のベテラン宇高菜絵（コマツ）が決勝で対戦。両者

決め手を欠くが、石川が指導差で優勢勝ちとなり、連覇を果たした。

◎優勝Ⅱ石川 慈選手（コマツ）

「連覇を意識せず、一試合ずつ全力を出しました。宇高先輩とはいつも稽古しているので決勝で試合ができ嬉しかったです。ライバルとの戦いよりも前に、まず自分に克たないと相手に勝てないという気持ちで戦っています。グラندスラム東京ではまだ表彰台に上がったことがないので、今までの経験を活かして今年こそ優勝したいと思います」

▽63kg級

昨年優勝の能智亜衣美（筑波大）と2014年覇者の嶺井美穂（桐蔭横浜大）の対戦となった。試合では能智が積極的に足技を出して攻める。惜しい技もあったが、結局技のポイントはなく、指導差で能智が昨年に続いて優勝した。

◎優勝Ⅱ能智亜衣美選手（筑波大）

「講道館杯連覇は狙っていたので、優勝はどうしても譲れませんでした。初戦から調子が良くなかったのですが、悪いなりに勝てるようになった点で成長を感じます。決勝は足



女子48kg級決勝＝渡名喜（上）が小外掛で優勝



女子57kg級決勝＝石川（右）が寝技で攻める



女子63kg級決勝Ⅱ能智（右）が攻める

技が効きましたが、決め切れなかつたことが課題です。東京オリンピックの代表になり、結果を出すのが目標なので、ここからがスタートだと思っています。今後は担ぎ技や寝技の強化を図っていききたいです」

▽70kg級

リオ五輪金メダリストの田知本遥と最後まで代表争いを演じた新井千鶴（三井住友海上）が1回戦で敗退するまさかの展開。決勝は今年の学生優勝大会での活躍や、全日本ジュニアでの優勝が記憶に新しい新添左季（山梨学院大）と昨年王者の大野陽子（コマツ）の対戦。試合は互角の攻防でゴールデンスコアに突入。



女子70kg級決勝＝新添（右）が豪快な大外刈一本を決める

すると、新添は大内刈で攻め、それを堪えた大野に間髪をいれずに大外刈を決めて初優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ新添左季選手（山梨学院大）

「嬉しいです。全部出し切るつもりでいきました。自分の組手にできないのは予想していたので、そこで潰されないことを意識しました。今日の優勝を今後に繋げて、70kg級の上位にいけるように頑張りたいです」

▽78kg級

2013年皇后盃王者の緒方亜香里を破った佐藤瑠香（コマツ）と、昨年優勝の濱田尚理を2回戦で破った世界ジュニア優勝経験のある吉村静織（三井住友海上）が決勝で対戦。佐藤は序盤から前に出て、小外刈で有効を奪うと、試合中盤にも体落で有効を奪い、そのまま縦四方固で一本勝した。

◎優勝Ⅱ佐藤瑠香選手（コマツ）

「優勝できてホッとしています。最初から攻めていくようにとのアドバイスを受けていました。優勝しか考えていなかったの勝って良かったです。グラนด์スラム東京でもしっかり優勝したいと思います」

▽78kg超級

この階級の看板選手の一人である田知本愛（ALSOCK）が膝のケガで欠場する中、昨年まで3年連続で優勝している朝比奈沙羅（東海大）

が順当に決勝進出を決める。対するは、今年高校生になったばかりでありながら全日本ジュニアを制した素根輝（南筑高）。朝比奈は身長差を活かした有利な組手で試合を進めると、中盤に支釣込足で有効を奪い、

優勝。女子選手としては史上初の4連覇を達成。

◎優勝Ⅱ朝比奈沙羅選手（東海大）

「調整がうまくいかなくて悩んでいたのですが、結果を残せたことは自信に繋がりますが、一本勝ちしないといけない試合でした。私が素根選手と同じ年で初出場した時は2回戦敗退だったので、自分を越える選手が出てきたと思います。今後は東京オリンピックに向けて頑張りたいです」



女子78kg超級決勝＝朝比奈（右）が内股で攻める

【大会結果】

◆男子	優勝	2位	3位
100kg超級	王子谷剛志 (旭化成) (初優勝)	太田彪雅 (東海大)	佐藤和哉 (日本大) 影浦 心 (東海大)
100kg級	ウルファロン (東海大) (2年連続2回目)	飯田健太郎 (国士館高)	下和田翔平 (京葉ガス) 後藤隆太郎 (慶應義塾大)
90kg級	長澤憲大 (パーク24) (初優勝)	釘丸太一 (センコー)	向翔一郎 (日本大) 加藤博剛 (千葉県警察)
81kg級	渡邊勇人 (了徳寺学園) (2年ぶり2回目)	春山友紀 (自衛隊体育学校)	小原拳哉 (東海大) 佐藤正大 (国士館大)
73kg級	立川 新 (東海大) (初優勝)	中矢 力 (ALSOK)	吉田優平 (東海大) 土井健史 (ダイコロ)
66kg級	磯田範仁 (国士館大) (初優勝)	橋口祐葵 (明治大)	高上智史 (旭化成) 藤阪太郎 (国士館大)
60kg級	永山竜樹 (東海大) (初優勝)	志々目徹 (了徳寺学園)	青木 大 (日本体育大) 大島優磨 (国士館大)
◆女子			
78kg超級	朝比奈沙羅 (東海大) (4年連続4回目)	素根 輝 (南筑高)	山本沙羅 (大阪体育大) 井上愛美 (JR九州)
78kg級	佐藤瑠香 (コマツ) (5年ぶり3回目)	吉村静織 (三井住友海上)	緒方亜香里 (了徳寺学園) 泉 真生 (山梨学院大)
70kg級	新添左季 (山梨学院大) (初優勝)	大野陽子 (コマツ)	前田奈恵子 (JR東日本) 中江美裕 (筑波大)
63kg級	能智亜衣美 (筑波大) (2年連続2回目)	嶺井美穂 (桐蔭横浜大)	荒木穂乃佳 (兵庫県警察) 津金 恵 (筑波大)
57kg級	石川 慈 (コマツ) (2年連続3回目)	宇高菜絵 (コマツ)	小野彰子 (ベネシード) 芳田 司 (コマツ)
52kg級	角田夏実 (了徳寺学園) (初優勝)	立川莉奈 (福岡大)	橋本優貴 (コマツ) 阿部 詩 (夙川学院高)
48kg級	渡名喜風南 (帝京大) (2年連続2回目)	森崎由理江 (A-LINE)	梅北真衣 (夙川学院高) 遠藤宏美 (ALSOK)

「グラウンドスラム東京 出場選手」

大会終了後、強化委員会が開かれ、12月2〜4日に行われるグラウンドスラム東京2016の日本代表選手56名を決定した。出場選手は次の通り。

■日本代表選手

◇男子

- ▼60kg級 高藤直寿 (パーク24)、永山竜樹 (東海大)、志々目徹 (了徳寺学園)、大島優磨 (国士館大)
- ▼66kg級 磯田範仁 (国士館大)、橋口祐葵 (明治大)、阿部二三 (日本体育大)、高上智史 (旭化成)
- ▼73kg級 大野将平 (旭化成)、立川新 (東海大)、中矢力 (ALSOK)、橋本壮市 (パーク24)
- ▼81kg級 永瀬貴規 (旭化成)、渡邊勇人 (了徳寺学園)、春山友紀 (自衛隊体育学校)、佐藤正大 (国士館大)
- ▼90kg級 長澤憲大 (パーク24)、釘丸太一 (センコー)、西山大希 (新日鐵住金)、向翔一郎 (日本大)
- ▼100kg級 羽賀龍之介 (旭化成)、ウルファロン (東海大)、飯田健太郎 (国士館高)、下和田翔平 (京葉ガス)
- ▼100kg超級 原沢久喜 (日本中央競馬会)、王子谷剛志 (旭化成)、太田彪雅 (東海大)、七戸龍 (九州電力)

◇女子

- ▼48kg級 近藤亜美 (三井住友海上)、渡名喜風南 (帝京大)、森崎由理江 (A-LINE)、遠藤宏美 (ALSOK)
- ▼52kg級 志々目愛 (了徳寺学園)、角田夏実 (了徳寺学園)、立川莉奈 (福岡大)、阿部詩 (夙川学院高)
- ▼57kg級 芳田司 (コマツ)、宇高菜絵 (コマツ)、石川慈 (コマツ) 玉置桃 (三井住友海上)
- ▼63kg級 能智亜衣美 (筑波大)、嶺井美穂 (桐蔭横浜大)、津金恵 (筑波大)、荒木穂乃佳 (兵庫県警察)
- ▼70kg級 新井千鶴 (三井住友海上)、新添左季 (山梨学院大)、大野陽子 (コマツ)、前田奈恵子 (JR東日本)
- ▼78kg級 梅木真美 (環太平洋大)、佐藤瑠香 (コマツ)、吉村静織 (三井住友海上)、高山莉加 (三井住友海上)
- ▼78kg超級 山部佳苗 (ミキハウス)、朝比奈沙羅 (東海大)、素根輝 (南筑高)、稲森奈見 (三井住友海上)

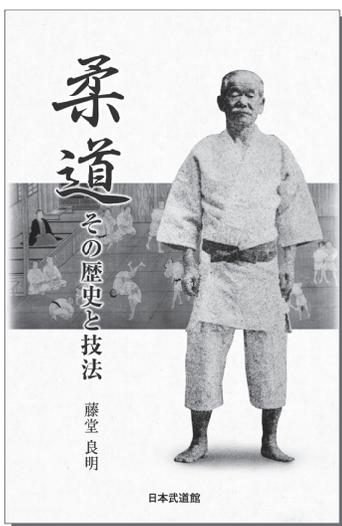


好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円+税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた^{*}武道としての柔道、を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

<p>第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法</p>	<p>第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選士権大会の開催と技法</p>	<p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法</p> <p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題</p>
<p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法 竹内流腰廻 関口新心流柔術 起倒流柔術 起倒流柔道 直信流柔道 真之神道流柔術 天神真楊流柔術</p>		

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

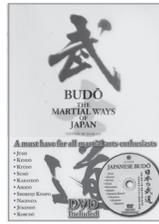
日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学体育系准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は すばらしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 子どもの心を育む

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



柔道の国際化 —その歴史と課題—

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・552頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)

平成28年度全国警察柔道大会

大阪府警が3年連続の優勝を果す

平成28年度全国警察柔道大会（主催＝警察庁）が10月17日、日本武道館で開催された。試合は第1部、第2部、第3部のグループ別による団体戦が行われた。第1部は大阪府警が3年連続となる優勝を果し、第2部は神奈川県警、第3部は茨城県警が優勝した。

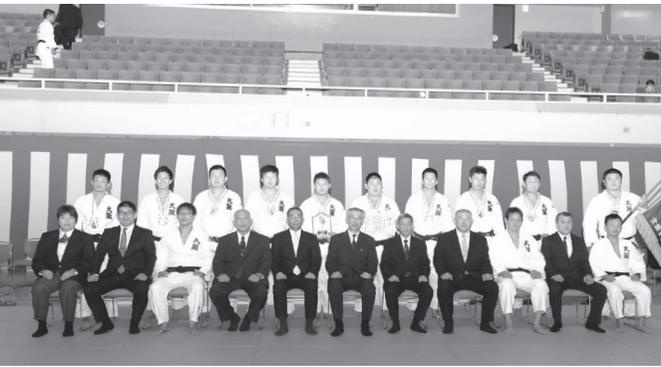
■第1部

第1部は7人制の団体戦により、12チームが参加。12チームを4グループに分け、各組ごとにリーグ戦を行い、順位を決める。各組の首位チームによるトーナメント戦を行った。リーグ戦の結果、トーナメント戦に残ったのは、昨年・一昨年と2連覇している大阪、昨年2位の兵庫、昨年3位の福岡、それに愛知の4チ

ームによるトーナメント戦を行った。リーグ戦の結果、トーナメント戦に残ったのは、昨年・一昨年と2連覇している大阪、昨年2位の兵庫、昨年3位の福岡、それに愛知の4チ



第1部・決勝副将戦＝大阪・倉橋（上）が一本をとる



第1部優勝＝大阪府警

ーム。準決勝は大阪が愛知を3―0で、福岡が兵庫を1―1ながら内容差で、それぞれ降した。

決勝は3連覇を狙う大阪と、昨年3位の福岡の対決。先鋒戦から五将戦までは全て引分けとなった。中堅戦、大阪・川瀬は福岡・後小路（うしろみち）に対し内股を中心に攻めていく。防戦一方の後小路は指導を重ね反則負けとなり、川瀬が勝利。三将戦、大阪・村上（むら）は福岡・柴崎（しばさき）に対し、一瞬の隙をつき、背負投で技有を奪う。村上（むら）は指導を受けるものの、相手の攻め（うま）を上手く躲（かわ）し勝利を収める。大阪は2―0とリードを広げる。

大阪が勝てば優勝となる副将戦。9月の全国警察柔道選手権大会で100kg超級個人戦覇者の大阪・倉橋（くら）が登場。福岡・松雪（まつゆき）と対戦した。開始早々、倉橋は送足払を繰り返す。ポイントにはならないが試合の主導権を握る倉橋。中盤、松雪が大内刈で仕掛けてきたところを倉橋は上手く返し、体を浴びせ一本。大阪の優勝が決まった。大将戦の大阪・川北（かわきた）と福岡・江藤（えどう）の対戦は引分けとなり、3―0で大阪が3年連続の優勝を飾った。

◎優勝Ⅱ大阪府警・北田孝敏監督（きたたかひさし）

「優勝した一番の要因は、選手一人一人が失点なしで次へ次へとつなげられたことです。人を頼りにしないこと、そこが崩れると負けてしまいう。一人一人が責任を持って務めてくること。試合前、そのように選手たちには伝えました。3連覇へのプレッシャーは選手たちには見えないうように思えました。監督が一番感じていたかもしれません」

◎優勝Ⅲ倉橋功選手（大阪）（くらこうすけ）

「決勝では自分が取らなきやという思いが強かったです。相手の松雪選手は高校・大学の先輩で自分の苦手な選手でしたが、自分で優勝を決められたことは非常に嬉しいですね。今後も気を緩めることなく、まずは11月の講道館杯に向けて努力していきたいと思えます」

【大会結果】

▽第1部 ①大阪府警、②福岡県警、③兵庫県警

▽第2部 ①神奈川県警、②佐賀県警、③千葉県警

▽第3部 ①茨城県警、②岩手県警、③新潟県警

平成28年度全国警察剣道大会

柔道に続いて大阪府警が2連覇を達成

平成28年度全国警察剣道大会（主催＝警察庁）が10月18日、日本武道館で開催された。試合は第1部、第2部、第3部のグループ別による団体戦が行われた。第1部は大阪府警が2連覇を達成。前日の柔道大会とともに連日の栄冠となった。第2部は京都府警、第3部は大分県警が優勝した。

■第1部

第1部は7人制の団体戦により、12チームが参加。12チームを4グループに分け、各組ごとにリーグ戦を行い、順位を決める。各組の首位チームによるトーナメント戦で錦を削った。リーグ戦の結果、トーナメント戦に残ったのは、昨年優勝の大阪、神

奈川、警視庁、昨年3位の北海道の4チーム。準決勝は大阪が警視庁を3―2で、神奈川が北海道を4―2で、それぞれ降した。

決勝は連覇を狙う大阪と神奈川の対決。先鋒戦から五将戦まで大阪が勝ち3―0とリードする。しかし中堅戦では神奈川・土居が大阪・岩切から面2本を決め、三将戦の神奈川・浦川も大阪・牛島から面を奪った。神奈川は2勝をあげ、3―2と大阪に迫る。

注目の副将戦は、9月の全国警察剣道選手権大会優勝の大阪・大城戸と神奈川・勝見の対戦。同じ鹿屋体育大学出身による同門対決となった。前半、苦手意識のある勝見との対戦にやりにくさを感じたという大城戸は、勝見に小手を決められる。しかし、仲間の声援に奮起したという大城戸。すぐに面を決め一本を取り返した。一本取られてからは必ず相手の勝見が焦ってくると思ったという。大城戸は、小手に出た勝見の竹刀を押し、引面を決めた。この時点で大阪は2連覇を達成。大将戦では大阪・萩原が小手、胴と2本勝ちを収め、優勝に華を添えた。

◎優勝＝大阪府警・小林憲和監督こはやしのりかず

「今年、新しいチームでスタートをきって、このように結果がついてきたことは本当に嬉しいことです。一試合目から一戦一戦大事にしていく気持ちで臨みました。選手たちには「上を見ずに一つ一つ戦ってくれ」と伝えました。選手の入替えもしながら全員で戦った大会となりましたね。決勝では、中盤に勝数を相手に取られましたが、副将の大城戸が頑張ってくれました」

◎優勝＝大城戸知選手おおきとく（大阪）

「先月に全国警察剣道選手権大会で優勝して、副将という大事なポジションとなり、決勝の大事な場面で勝見君と対戦となりました。はじめに一本取られました。この一年やってきた成果を出そうと思い、臨みました。次は3連覇を目指します」

【大会結果】

- ▽第1部 ①大阪府警、②神奈川県警、③警視庁
- ▽第2部 ①京都府警、②福岡県警、③和歌山県警
- ▽第3部 ①大分県警、②愛媛県警、③愛知県警



第1部 決勝副将戦＝大阪・大城戸（手前）が引面を決める



第1部優勝＝大阪府警

好評発売中

絵と文 中村麻美 (なかむらまみ)

F4判・上製・98頁・定価(本体2700円+税)

伝えたい日本のいづこ



中村麻美 (なかむらまみ) 画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室(田中峰雪氏に師事)にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説

挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に『天地人丸紋絵巻』(兼統お船ミュージアム所蔵)、『齋王』(三重県立斎宮歴史博物館所蔵)など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のいづこ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。(本書「あとがき」より)

目次

- 1 かしい小僧さん
- 2 ひよどり越え
- 3 天の石屋戸
- 4 巖流島の決闘
- 5 太田道灌と少女の歌
- 6 三本の矢の教え
- 7 山中鹿介―我に七難八苦を与えたまえ
- 8 良寛さまと荷
- 9 民を慈しむ仁徳天皇
- 10 中江藤樹―母への薬
- 11 夫の危機を救う弟橘媛
- 12 良子齋王―別れの御櫛
- 13 桜井駅の別れ
- 14 八俣の大蛇
- 15 川中島の戦い―謙信と信玄
- 16 紅梅内侍と鶯の宿
- 17 新羅三郎義光―笙の秘曲を授ける
- 18 小松姫―夫の居城を守りぬく
- 19 青の洞門
- 20 鍋島直茂と接ぎ木
- 21 小林虎三郎―米百俵の精神
- 22 島津義弘―関ヶ原敵中突破
- 23 光明皇后―千人のからだを洗う
- 24 城戸俊三―勝利を捨てて愛馬を救う
- 25 松坂の一夜
- 26 柳に飛びつく蛙
- 27 称名寺『青葉の楓』
- 28 神武天皇ご東征
- 29 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 30 つるべの朝顔
- 31 野中兼山―海に捨てたはまぐり
- 32 鉢の木
- 33 因幡の白うさぎ
- 34 堪忍のわび証文
- 35 橘曙寛『独楽吟』
- 36 南総里見八犬伝
- 37 吉田松陰の志
- 38 鳥居強右衛門の勇気
- 39 明智光春―誉れの湖水渡り
- 40 赤穂義士の討ち入り
- 41 頼朝を助けた梶原景時
- 42 真田幸村―大坂の陣
- 43 天照大御神と美し国・伊勢
- 44 和田勇―祖国にオリンピックを招致
- 45 長岡花火『白菊』

編集・発行 公益財団法人日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 まどどうぞ!

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

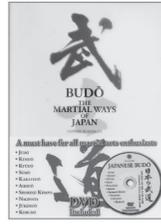
日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

皇學館大学教授
菅野 覚明 著
(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家
小笠原清忠 著
(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著
(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授
前林 清和 著
(四六判・上製・370頁)



<増補版>

私も武道経験者です

月刊「武道」記者
吉野 喜信 著
(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター
辻 秀一 著
(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授
大保木輝雄 著
(四六判・上製・220頁)



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。